

## 令和元年度 第1回 宇都宮市総合教育会議 議事録

- 1 日時 令和元年9月27日(金) 午後2時～午後3時
- 2 場所 宇都宮市役所13階 教育委員室
- 3 出席者  
(構成員) 佐藤市長  
小堀教育長, 大場委員, 伊藤一委員, 清島委員, 伊藤三千代委員  
(事務局) 総合政策部  
情報化推進担当副参事, 情報政策課長  
教育委員会事務局  
教育次長, 学校教育担当次長, 教育企画課長, 総務担当主幹  
学校管理課長, 学校教育課長, 学校健康課長, 教育センター所長
- 4 傍聴者 1名
- 5 議題 今後の情報化の推進について  
～学校現場における情報化への展望～

### 6 議事の内容

#### (1) 開会

菊池教育次長

ただいまから, 令和元年度第1回宇都宮市総合教育会議を開会いたします。本日の会議の進行を務めさせていただきます, 教育次長の菊池でございます。よろしくお願いいたします。

#### (2) あいさつ

菊池教育次長

はじめに, 佐藤市長からごあいさつをお願いいたします。

佐藤市長あいさつ

菊池教育次長

ありがとうございました。  
続きまして, 小堀教育長からごあいさつをお願いいたします。

小堀教育長あいさつ

菊池教育次長

ありがとうございました。  
ここからの議事の進行については, 市長にお願いしたいと思います。  
佐藤市長, よろしく申し上げます。

#### (3) 議事

佐藤市長

今回は, 「今後の情報化の推進について ～学校現場における情報化への展望～」をテーマに意見交換を進めてまいりたいと思います。

まずは, 本市全体の情報化推進の方向性について, 情報政策課から説明をお願いします。

本市の情報化推進について（情報政策課説明）

佐藤市長

ありがとうございました。

次に、学校現場での情報化への取組状況などについて教育センターから説明をお願いします。

学校現場での情報化への取組状況について（教育センター説明）

佐藤市長

ありがとうございました。

それでは、教育委員の皆さまから情報化の現状にかかる考えや意見、今後の学校現場での情報化への取組の方向性などについて、それぞれご意見をいただきたいと思います。

大場委員

ただ今の説明を聞いていますと、社会全体が大きな変革の時代を迎えているものと感じました。情報機器は進展しており、これまで時間をかけていたものが簡単にできたり、不可能だったことが可能になったりと、一言で言えば便利な道具ができたと思います。これらのICTを子どもたちが十分に使いこなしていけるよう、様々な場面で情報教育を推進していくことは重要なことであると思います。現在、学校教育の中で危惧されているのは、教職員が子どもたちと向き合う時間が少ないということです。そういった教職員の手助けのツールとして、ICTが活用され、結果として教職員の時間を生み出すことができると期待しています。

また、こうした機械には限界があり、人間でないとできないことも多々あります。情報化の進展により、その差別化がはっきりしてくるのではないかと思います。人と人のつながり、心と心のつながりなどは人間でなければできません。そうなる则教職員という職業は大変価値があるものになると考えます。こうした中で教職員がICTを活用することで、さらに価値をあげていければいいと思いますし、機械では片付けられない歴史や文学の分野もクローズアップされていくと、バランスのとれたよりよい社会が形成されるのではないかと思います。

伊藤一委員

ICT教育については、現場も見させていただきましたが、子どもたちも楽しそうにやっており、教職員もデジタル教科書などを活用しながら一生懸命取り組んでおられ、大変便利なツールであると思います。これからの子どもたちは、ますますICTに囲まれて生活することになりますので、これらICTをツールとして利用し、親しむことは重要です。積極的に推進すべきことだと思います。ただ、本市は全国平均と比較し、児童1人あたりのコンピュータの整備状況が遅いとありますが、ハードは日進月歩でありますので、むしろソフト面での対応を検討していかなければと考えています。具体的には、子どもの個別学習に有効なソフトを活用することが重要だと思います。今では個人の情報機器の所有率も高くなり、スマホなど何らかのハード機器を持っていることが多いです。そう考えると、子

どもたちが集団でなくてもできる教育，いわゆるドリル学習などのソフトを充実させていくこと，特に理数系はどこかでつまずいてしまう子どももいますので，つまずきに沿ったソフトを作り，民間企業等とも連携して家庭で学習できるようなシステムを構築すれば，個別学習がいつでもどこでもできるようになると思います。その結果，子どもの基礎力が定着し，学校では集団学習や協働学習に力を入れることも可能になります。ICTという点においては，ハードの整備に注目しがちですが，こうしたソフト面での整備を図ることで，家庭教育の充実にも繋がるのではないかと思います。

清島委員

私も伊藤一委員と同じ意見ですが，ICTの活用となると，タブレット端末を何台整備したかなどの数が注目されますが，ある程度の児童生徒数をカバーできるぐらいの整備ができれば気にする必要はないと思います。今はSociety5.0など言われていますが，学校現場での取組を考えた時，学校に行かなくても学習ができるという見方ができると考えています。それは，不登校への対応という点において，家にいながら学校での授業を受けられるような仕組みを取り入れられると有効ではないかと思います。何らかの事情で学校には通えなくても，同じ授業を受けられる環境を作っていくことは，情報化の1つの可能性だと思います。

また，機械を使うのは人間ですので，ネットいじめの増加にならないように，使う人間側の教育も重要になってきます。それは子どもたちだけでなく，大人にも言えることなので，そういったことにも重点的に取り組んでいくことが求められると思います。

伊藤三千代委員

現在の社会では，やはり情報化に対応できるよう子どもたちを育成していくことが重要なことだと思いました。情報化の取組で，素晴らしいと思うのは，教職員が子どもたちと向き合う時間を確保するために，校務の情報化などを進めていることだと思います。あとは，授業などで活用する際に，コンピュータに使われるのではなく，正しく，うまく使えるように，使い方を教えていくことが大切なことだと思います。

使い方としては，今は塾に行けないような子どももいますので，塾に行かなくても，例えばその日の授業内容について家庭でも復習できるようなものとして活用できるようになればいいと思います。また，私個人としては，学校の中で活用する際には，協働学習などでうまく利用し，コミュニケーション力の育成，みんなで勉強することの意味や楽しさを学ぶためのものとして活用していくことが大切ではないかと思います。自分で得た知識などを，みんなに発表する，自分の考えをうまく伝える，こうしたことを学校で学ぶことだと思いますので，そういった場面で活用してもらえればと思います。

小堀教育長

本市では教職員用パソコンについては，全国に先駆けて整備・配備してきましたが，事務処理，成績処理，会計処理などのソフト面におきまして

も充実したものを現場に提供しており、教職員の方々からは大変有り難がられている状況です。一方で、児童生徒1人あたりのタブレット端末等の整備数については、本市の状況として学校数や児童数・学級数も多いこともあって、全国平均を下回っている状況であります。ただし、これでいいか・悪いかということについては、ICT機器の活用について、学校の現場でどれだけニーズがあるのかをしっかりと把握する必要があると考えています。現在の整備数で不足しているのか、どういった場面で活用されるのかななどをよく検証しながら、今後ハードの整備を推進していきたいと思えます。

また、ソフト面の整備については、教育委員からもご発言がありましたが、どのように充実させてICTを活用していくのかが重要です。先ほども申しましたが、ただ単にハードを整備すればいいのではなく、どのようにICT機器を活用していくのか、あくまでもICT化は手段であり、目的ではないので、本来の教育の目的に応じたICTの活用について、教職員の指導方法を含めて、今後取り組んでまいりたいと思えます。

佐藤市長

皆様から様々な意見をいただき、ありがとうございます。

歴史や文学では、ICTではなく人の手によるものがないのではないかと意見がありましたが、特に音楽なども、楽器を弾くためには様々な苦勞をしながら練習して弾けるようになりますが、それらが音のぬくもりや温かさになって伝わってくるものだと思いますし、それは機械ではできないことだと思います。また、タブレット端末の整備数が少ないことに関しては、それを意識して取り組まなければなりません、個別学習において、独自のソフトを作成して家庭で活用することなども有効な意見です、学校に行けないような子どもたちに対して、教育の機会を確保するため家庭で授業を受けられるような環境を整備していくというご意見についても、今後検討していくことが必要になるかもしれません。さらに、今後は様々な場面でICTを活用していくことがますます必要になってきますが、何よりも大切なことは本質を見極めながら、ICTを正しく活用していくことだと思います。

さて、先ほど情報政策課より説明がありましたが、本市ではスマート自治体への転換などを見据え、私が本部長となった情報化推進チームを立ち上げて情報化を推進しています。具体的な取組としては、スマートフォンなどを活用した市民の利便性の向上、交通・移動分野における総合的なICTの活用、スマートシティモデル事業の実施、民間活力の積極的な活用、AI・RPA・ドローン・5G等の新たなICT導入にかかる検討を進めていきたいと考えています。今後は、人口減少、少子・超高齢化社会により、人口構造、都市構造が急激に変化していく時代であり、少ない人的な資源の中で、高齢化社会等を支えていくためには、新たな科学技術等を最大限に効果的に活用していくことが重要であり、そのための調査・研究、あるいは人材育成にも力を入れ、ICTを活用できる人づくりを進めていきたいと思えます。

こうした中で、学校現場で考えられる取組として重要なことは、子どもたちに先進的な技術に触れてもらうことだと思いますので、プログラミング体験やあらゆる授業で効果的にICTを活用できる環境整備に支援してまいりたいと考えています。また、本市ではこれまでも学校の校務のシステム化を進めてきていますが、市役所と同様、今後さらに自動化などが可能な業務を検討していくことが重要です。特に、教職員の多忙化、働き方改革が大きな課題であり、その一躍を担うのが情報化でもありますので、これまでの仕事をICTに置き換えていく視点で考え、実現に向けた検討をしていくことが必要だと思います。例えばAIやRPAについては、教職員の多忙化の解消に向けては、市役所だけでなく学校現場でも有効に活用できる場面があるのではないかと考えています。また、今年度11月に宇都宮市で3x3ワールドツアーファイナルが開催する際、セキュリティ対策として顔認証システムを活用することを検討していますが、このようなシステムは学校現場における不審者対策でも有効になると考えますし、ドローンを活用して学校下校時の子どもたちの見守り、安全確保対策なども今後検討できるかもしれません。5Gの活用では、複数のカメラを設置することで、自分の見たい角度からの映像を見ることができるといことが利点でもありますので、こうしたことは学校現場においても、1人の担任が全ての児童を見ることにうまく活用できるのでないかと考えています。これらは今後現実的に可能なのか、課題の整理も必要ですが、こうした情報化については今後様々な場面で活用することが期待できます。

ただ、何よりも重要なことは、委員の皆様もお話しされていますが、人間が主体でICTに利用されないこと、ICTをうまく活用できることだと思います。そのためにも、地に足をつけ、自ら考えながら、たくましく生きる人間力が必要な時代でありますので、そこにしっかりと注視し、AIなどは、人間で処理しきれないようなデータから1つの解を導くことには優れているので、そういった部分をコンピュータに担ってもらい、人間が主体となって進めていくことを理解できる教育、つまりは高い人間力を備えた人づくりがこれからの時代においても永遠のテーマとして取り組んでいくことが必要だと思います。

伊藤一委員

AIもどこまで進んでいくのかという議論がありますが、人間はAIと違って共感できる生物です。生物として生まれて他律的な存在ではなく、自律的な存在として、他に共感しながら、文明を発展させてきた歴史がありますし、こういったことを今後も目指し続けていく必要があります。

よくAIにより市役所の人数が半分に減らせるということが言われていますが、学校の教職員は、これまでの業務を半分の時間に縮減し、その分子どもたちと向き合うことで、教育を充実させることが重要だと思います。

伊藤三千代委員

情報化の進展は急激で、教職員もこうした情報化の対応などは想定していなかったと思います。時代の変化に応じて柔軟に対応しなければならない先生方は大変だと思います。

佐藤市長 先生方は情報化への対応も必要ですが、情報化に振り回されることなく、自分のカラーを持つことも重要だと思います。

大場委員 情報化により、先生方の時間が生まれれば、自分の個性を發揮できることにも繋がるのが期待できると思います。

伊藤一委員 先生方は人間として子どもに寄り添って、共感しながら声掛けなどを行うことで、子どもは成長するものです。教育には人間が関わることは重要なことです。学校における情報化はいい方向に向かって欲しいと思います。

佐藤市長 それでは、そろそろ時間となりましたので、意見交換を終了したいと思います。

#### **(4) その他**

佐藤市長 次に「その他」になりますが、教育委員会の皆様から何かございますか。

(特になし)

佐藤市長 それでは、進行を事務局に戻します。それでは、時間となりましたので進行を事務局に戻します。

#### **(5) 閉会**

菊池教育次長 市長、ありがとうございました。

以上で、令和元年度第1回宇都宮市総合教育会議を閉会いたします。  
ありがとうございました。